（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ヨシア（ハイジ）			
○保護者評価実施期間	2025年　2月　1日	～	2025年　2月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20名	（回答者数）	20名
○従業者評価実施期間	2025年　3月　1日	～	2025年　3月　7日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援（家族支援、療育、地域支援）を職員がチームで連携して行えています。緊急対応なども行い、家庭の困り感に迅速対応しています。 また、職員のケア、サポートはスーパーヴィジョン体制を組織的に行っています。	事業所内相談支援や親子発達支援等を定期的に行い、その過程の困り感を聴き取り、チームで情報を共有して支援に繋げています。スーパーヴィジョンによって風通しの良い職員関係を築いています。	発達支援を各機関と連携して行い、包括的に行っていきます。
2	子ども、保護者、学校やクリニック等の子どもを取り巻く機関や人と協力し、情報を共有しています。	必要に応じて各連携機関と会議を行っています。また、学校支援として、職員が学校で子どものサポートを行っています。	地域の機関と連携し、地域での交流や、支援に繋げていきます。
3	研修委員会を設けて、内部、外部の研修を多く取り入れています。	法人内の研修では新人職員向け、年代別など研修を全職員が受け入れられるよう工夫しています。また、外部研修にも多く参加しています。	専門性の向上のために、専門書等を読んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの発達段階にばらつきがあり、また、愛着障害の子ども等がいる中で、集団での活動を子ども一人ひとりに合ったものを提供することが難しいことがありますが、職員が連携して知恵を出し合い、子どもひとり一人のアセスメントを行っています。	子どもたちの特性や発達段階、情緒レベルの理解や関わりに対して広く深い専門性が必要です。	発達支援の専門性向上のため、研修会や事例検討などでさまざまな障害や特性、家族支援について学びます。外部研修には積極的に参加し、内部研修を多く主催していきます。
2			
3			